

第262回 令和8年7月1日（水）

「電話のはなし」

映像も同じですが、例えば地球の反対側からでも声が届くというのはすごいことですよね。昔の人が体験したらこれは何の魔法だと思ってしまうでしょう。有線だって不思議なのにいまは衛星を経由して声が聞こえる時代になっているわけですから。

私の若いころは家には黒い固定電話が1台という家庭が普通でした。ダイヤルは回す方式です。電話はたいてい家族がいるリビングに置いてあります。友達からの電話も親がとることが多かったので「すみません、〇〇と申しますが、××君いらっしゃいますか」と呼び出す必要がありました。人によっては親と仲良くしゃべる友達もいました。そのころは子どもの交友関係は親に筒抜けでした。

そのうち親機、子機といって、自分の部屋に電話を置けるようになりました。ただし回線は一つですから相変わらず誰が最初に電話に出るかはわかりません。電話をかけるときはとても緊張しました。

私が働き始めたころに携帯電話とPHSが登場しました。携帯はとても高く、大きくて重いものばかりでした。PHSは小さくて軽く安価なのですが、ほぼつながらないといっているくらいでした。駅や町中以外はまずアンテナが立ちませんでした。携帯も基地局が少なく、いまほど接続は良くありませんでした。

携帯に電話すると必ず本人が出るわけですから、電話をかけるマナーや作法は無くなっていきます。気心の知れた仲間なら何時にかけても良いわけですから。若いころは夜中に「いまから飲みに行くぞ」と先輩から電話がかかってきました。夜は電源を切って、バッテリー切れでしたと言い訳を言う技術を覚えました。

スマホが出て私はいましばらくガラケーでした。電話なのだから話せばよいというのが理由です。それでも仕事のメールやLINEなどを使用する必要に迫られ、スマホを買うことになりました。いままでは公共交通機関に乗るのも、英会話の勉強をするのも、映画を見るのもスマホなしではできなくなりました。スマホの性能は気にしていませんし、ゲームやカメラなどはほとんど使いません。本が好きなのでスマホの使用時間は一般より少ないと思います。

一度スマホの読書サービスを試しましたが、ページをめくる作業がどうも気持ちが悪く感じるのですぐに止めてしまいました。読書は紙じゃないと物足りません。鈍器本の残りページが少なくなっていくと達成感があります。

この文章も10年もするとガラパゴス化するのでしょうか。ついていくのに必死です。